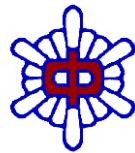
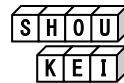


松溪中の七夕



令和7年度
杉並区立松溪中学校



7月号

松溪だより

<http://www.suginami-school.ed.jp/shoukeichu/>

教育目標

- 自学・自立
- 思いやり・感謝
- 鍛錬

ことばのちから

校長 小松 進一

— 「まだ10歳ですよ」 —

先日、12年前に初版発行された『ようこそ感動指定席へ！～言えなかった「ありがとう」～』（著者：志賀内 泰弘）を読み返した。この本は、中日新聞（愛知県内版）の人気コラム「ほろほろ通信」が、読者の熱望により書籍化したものです。心が“ほろり”とする「いい話」が100話書かれています。二話紹介します。

半田市のYさん（49）は小学校の個人面談へ出掛けた。いつものことながら、少し不安を抱きつつ。というのは、小学校5年生の息子さん（H）が広汎性（こうはんせい）発達障害のため、集団行動が苦手だからだ。感情を伝えたり読んだりすることが難しく、周りの人とのコミュニケーションがはかりにくい。

新任のM先生は開口一番にこうおっしゃった。「がんばってますよー」。続けて「僕はH君のことが大好きです。毎日笑顔で近寄ってきてくれます。かわいらしいじゃないですか」。この一言だけで安心した。さらに「クラスのみんなが彼のできないことは助けてくれますよ」とも。H君の机の上には、紙を折って作った小さなごみ箱が置かれてあった。一つのことに集中すると他のことに目が届かなくなってしまい、ごみが散らかしちゃなしになる。それを知った友達が、すぐに片付けられるようにと作ってくれたのだ。

「みんなと同じことができないことが多いくて、友達から責められることがありました」と相談すると、先生は「まだ10歳ですよ。大丈

夫です。もし彼を責める子がいたら『君だって完璧な人間じゃないだろ』と教えてやります」。「でも、片付けができなくて・・・」と言うと「かっこいいじゃないですか。小さいことを気にしないで」。そんな見方があるなんて驚いた。先生は最後におっしゃった。

「この一年で『こんなこともできないの？』と反対に友達に言えるくらいに成長させましょう」。Yさんは、先生の大きさを感じ、温かな気分で家路に就いたという。

新幹線の駅で切符を買おうとしたときの話だ。・・ようやく自分の番になった。ところが手元のお札が古いせいか、何度も入れても戻ってきてしまう。焦って後ろを振り向くと、長い列となっていた。視線が背中を刺すように痛んだ。何とか機械を通り、ジャラジャラッとお釣りが出てくる。気がせいているせいか、つかんだ手から100円玉が床に落ちてしまった。いつ怒鳴られるんじゃないかとさらに焦った。

慌てて拾う背中に、後ろの男性が関西弁で声をかけてきた。「慌てんでもええがな、ゆっくりやりなはれ」。振り向くとニッコリほほえみを投げかけてくれた。心の中のイライラが一瞬に消えうせていた。

あの新任の先生の台詞
も券売機の男性の一言も、
人の心を温かくしてくれ
ます。その言葉で人生が
変わることもあります。
言葉の力は大きい。
いつも「ほろほろ」する言葉を言いたいですね。

